

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019360350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 柘		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=019360350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人様が不安や寂しさがなく穏やかに暮らせるように環境作りに配慮しています。個別の外出支援など一人ひとりに寄り添った支援を目標にしています。敷地内には、花壇や畑があり早春から花を楽しみ、秋にはジャガイモなどの野菜が楽しめます。近隣に協力病院があり冬でもロードヒーティングが備わっていますので安心して通院する事ができます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム 柘」はJR青葉駅から5分以内の住宅地に立地し、近くには協力病院や同一法人の高齢者住宅がある。2ユニットの共用空間は回廊型で中央が吹き抜けになっている。全体が明るく広々しており、食堂と居間を別に配置した造りは生活の場を広げて自立に繋がっている。運営推進会議で町内会や行政と情報を交換し、推進委員の参加を得て避難訓練を行っている。保育園児とは継続的に交流し、近隣住民とも自然に触れ合っている。研修では、苫小牧・千歳地区の同法人7事業所が合同研修を行い、各事業所の管理者が交代で講師になり、職員は経験に応じた内容と目的別の研修を学び、即実践に繋がっている。また「ふれあいネットワーク」の研修会にも参加し、質の高いサービスを提供している。管理者は家族と共に利用者の暮らしを支える姿勢で意向や心配事を話し合い信頼関係を築いている。毎月全職員がモニタリングを行い、介護計画の見直し時には利用者・家族の意向を取り入れて介護計画を作成し、利用者にも説明している。月1回「ランチメニュー」の日を設け、利用者と相談して参加できそうな献立で食事作りを楽しんでいる。日々の散歩のほか、個人の希望に応じての外出支援や季節の花見などに出かけている。利用者を尊重した言葉遣いや対応を職員は日々学び、個々の思いに沿って丁寧に対応している。利用者の表情はよく、のびのびとした暮らしが出来るように明るく対応している。

V. サービスの成果に関する項目(1階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、常に目の届く所に掲示し意識し実践するように心掛けています。	地域との関わりを明記した地域密着型サービスとしての事業所理念を玄関、事務所に掲示している。職員は住民と触れ合う機会に理念を再確認したり、利用者の希望に沿って地域の店や足湯に出かけるなど理念を意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の子供みこしには、施設を開放。町内の保育園は、定期的に園児が訪問したりこちらから訪問する事もあります。	町内会秋祭りのカラオケ会には数人で参加し、地域の情報を得て「ふれあいコンサート」に出かけている。保育園児とは定期的に交流を温めている。玄関前の階段で休んでいる住民や子供達と会話を交わし、自然な流れで住民と触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、挨拶や近況等話し施設の説明を求められたら、丁寧に説明するようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し現状や活動内容をお伝えし、理解と協力をお願いし、意見交換を参考しながらサービスの質の向上に活かしています。	会議には行政担当者のほか、町内会代表として民生委員の参加を得ている。運営状況や各報告を行い、地域の情報を得て利用者の参加に繋げている。家族に案内を送付しているが、意見などは特になく、家族の参加がない会議も見られる。	家族の意見や関心ごとを聴き取り、会議の話題に活かされるような工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時や電話でのやり取り時に相談、助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいます。	運営推進会議の中で市の担当者から、その都度の情報を得て共有している。グループホーム連絡会に市の担当者が参加しており、事例検討の研修には職員も参加して事例を発表している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においてすべての職員が正しく理解しているかは、周知はできていないが日々の中で身体拘束をしないケアには、取り組んでいます。	職員採用時に身体拘束禁止について指導し、外部研修に参加した職員の伝達講習の中で、身体拘束禁止の11項目についても理解している。今年度中にリーダーの下で言葉遣いや対応についての研修を予定している。日中は玄関にセンサーを設置し、利用者の動作を見守りながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待と取れるようなケアは、見当たらず、すべての職員が注意を払い、防止に努めています。		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対し、日々の中で学ぶことはないですが研修等あれば参加しています。必要であれば、活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みながらその都度、不安や疑問に対し、説明し理解を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置しています。契約時にご意見、苦情の窓口の説明をしています。	家族と一緒にケアをしていく姿勢で 常に話し合い、心配事も聴きながら家族の意向を確認している。対応などを職員間で話し合い、連絡ノートや口頭で内容を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、申し送り時に意見や提案等を聞き代表者、管理者も情報交換し反映につなげている。	月1回のカンファレンスで業務の流れやケアについて意見を交換し、また外部研修の伝達講習を行っている。管理者は現場の意向に即対応する事で働きやすいように配慮している。必要に応じて個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時から徐々に労働時間、給与水準等向上し代表者は、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の確保、講習会への参加の促し等行ったり研修参加者には、研修内容をカンファレンス時に発表してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会には積極的に参加し交流を深めサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や行動等にて不安な事を察し安心に繋げるよう関係作りに配慮しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困った事や相談事などお互いに話し合い関係作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の望み、ご本人の望みを取り混ぜながら、必要としている支援を見極め、他サービス利用も視野に入れ対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場になりできる限り寄り添い穏やかに過ごせるよう支援している			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応できない事があれば、家族に相談し対応していただいたり、行事等で本人と家族が、共用できる時間をもうけている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたら居室にてゆっくりと過ごしていただいたり、御本人馴染みの美容室に連れて行くこともある。	近所だった知人が毎月来訪して会話を楽しんでいる。定期的な来訪のメイクやカラオケのボランティアとは馴染みの関係になっている。職員の同行支援で馴染みの商店に行ったり、生まれ育った地域で外食を楽しむなど個々の希望に沿っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め居間や食堂の座席の工夫。皆が関わりあえるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも相談等連絡あり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で意向を汲み本人本位に検討している。	法人共通のセンター方式のアセスメントに変更し家族の記録で情報を把握している。介護計画の見直し時に利用者の意向を聴き取り、また表情や本人の状態を把握してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や御本人の話などから生活歴等の把握に努めているが、情報が不足していることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や出来事、訴えなど介護記録に記入し職員全員で状況を把握できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行いご本人様の計画の見直しや意見交換などを行い現状に即した介護計画を作成できるようにしている。	毎月モニタリングを行い、3か月毎にカンファレンスで評価し更新計画を作成している。見直しの段階で本人、家族の意向を確認し、作成後、利用者にも説明して同意を得ている。介護記録は目標に連動して変化なども記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、更に申し送りノートにて気づきや実践した内容を記録し見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、臨機応変なサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民等交流あり暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先し、協力病院やかかりつけ医に通院介助している。個々のバイタル表を作成して協力病院に持参している。	かかりつけ医の継続受診は家族が対応し、受診内容を把握している。協力病院への通院に職員が同行し、必要な時は電話で結果を報告している。皮膚科の訪問診療があり、受診内容を個別に分かりやすく記録している。	

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護師による健康管理を行なっている。その際に相談やアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、担当看護師から情報をいただいたりお互いに情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し理解を得た上で契約している。	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」に、看取りに関する考えを明記している。利用者の重度化の状態を見て、家族と今後の方針を再確認している。話し合った内容を支援経過に記録して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは、あるが初期対応の訓練は定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の避難訓練は、実施している。その際地域の方の参加もあり協力体制は築いています。	日中を想定した避難訓練を運営推進会議と同日に行い、推進委員は誘導後の見守りで参加している。夜間を想定した訓練を12月に予定しているが、消防署の事情で2回とも自主訓練になっている。新人職員などの救急救命訓練の受講を検討している。	地震や水害を想定し、避難誘導や危険な場所の確認を行っているが、更に、各ケア場面での対応について話し合われることも期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や態度等尊厳を守るよう心がけている。	年1回接遇研修を行い、言葉かけを学んでいる。特にトイレに誘う時は、プライバシーに配慮している。また、申し送りでは、居室の番号を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや希望があれば都度対応し、その人らしさを元に自己決定を委ねています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の希望は、できる限り優先し、個々を大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にはヘアカット、希望があれば美容室に同行しています。		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米か粥等好みの希望により提供。食べれない物があれば代替品にて提供している。片付け等は、進んで行なってくれています。	月1回利用者の希望を聞き、「ランチメニュー」の日を設けている。畑で収穫したジャガイモやキュウリ、シトウなどの野菜を使うこともある。個別外出で回転寿司やケーキなどを食べに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、水分量や食事形態を考慮しています。水分量、食事量の記録により栄養のバランスを考え支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの声かけや一部介助にて行なっています。就寝時に義歯の方は、洗浄剤にて消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアから、御本人の状態を把握しさりげなく誘導したり御本人に合わせた支援をしています。	利用者全員の排泄チェック表を作成し、それを基にリハビリパンツから綿パンツに、おむつからリハビリパンツに変えることができている。離床時間が増えることが自立支援になることを実証している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動も行ないながら、主治医から処方された下剤も使用し予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴ができるよう支援しています。希望があれば、その都度支援しています。	日曜日のみ入浴日は無いが、希望があれば週に3回入る人もいる。車いすを使用しているが医師より全身浴の許可があり、2名の職員で介助し入浴を楽しんでいる。音楽を流すなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人のペースにて休息や睡眠はとっており意思を尊重し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的などを理解し服薬時には、全介助又は一部介助し、症状の変化があれば職員間で情報を共有し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の張り合い、得意な事、できる事を見極め楽しんで行なえるよう支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出したり、散歩に出かけたり支援している。家族と出かけられる時は、気持ちよく出かけられるよう支援しています。	日常的な外出としては、ホーム周辺の散歩や畑の様子を見に行ったり、玄関やサンルームで日光浴をしている。利用者の案内で「インクラの滝」までドライブしたこともある。家族が外泊や外食、カラオケなど普段は行けない場所への外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは、理解しているが使用する機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援し、職員から促す事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に飾りを替え季節感を出すようにしています。室内温度、湿度には配慮しています。	ユニットの玄関に利用者が自宅で育てていた観葉植物を置き、世話をしている。蕾が付き開花を楽しみにしている。1階の廊下には紅葉、2階はクリスマスの飾りつけをしている。居間は食堂から離れたスペースにあり、食後は一人ひとりソファに座りテレビを見ながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂がわかれており一人になれたり気の合った者同士になれる空間があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置くように家族と相談し居心地が良く過ごせるように支援しています。	家族の手作りの手芸品や亡き配偶者の写真、自作の作品など様々な馴染みのあるものを身の回りに置いている。日中は、居室より居間で過ごす時間が多く団欒を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっています。廊下には危険がないように物の配置にも工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019360350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 柘		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=019360350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、常に目の届く所に掲示し意識し実践するように心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の子供みこしには、施設を開放。町内の保育園は、定期的に園児が訪問したりこちらから訪問する事もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、挨拶や近況等話し施設の説明を求められたら、丁寧に説明するようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し現状や活動内容をお伝えし、理解と協力をお願いし、意見交換を参考しながらサービスの質の向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時や電話でのやり取り時に相談、助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においてすべての職員が正しく理解しているかは、周知はできていないが日々の中で身体拘束をしないケアには、取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待と取れるようなケアは、見当たらず、すべての職員が注意を払い、防止に努めています。		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対し、日々の中で学ぶことはないですが研修等あれば参加しています。必要であれば、活用していきます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みながらその都度、不安や疑問に対し、説明し理解を頂いています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置しています。契約時にご意見、苦情の窓口の説明をしています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、申し送り時に意見や提案等を聞き代表者、管理者も情報交換し反映につなげている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時から徐々に労働時間、給与水準等向上し代表者は、努力しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の確保、講習会への参加の促し等行ったり研修参加者には、研修内容をカンファレンス時に発表してもらっています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会には積極的に参加し交流を深めサービスの質の向上に取り組んでいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や行動等にて不安な事を察し安心に繋げるよう関係作りに配慮しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困った事や相談事などお互いに話し合い関係作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の望み、ご本人の望みを取り混ぜながら、必要としている支援を見極め、他サービス利用も視野に入れ対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場になりできる限り寄り添い穏やかに過ごせるよう支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応できない事があれば、家族に相談し対応していただいたり、行事等で本人と家族が、共用できる時間をもうけている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたら居室にてゆっくりと過ごしていただいたり、御本人馴染みの美容室に連れて行くこともある。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め居間や食堂の座席の工夫。皆が関わりあえるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも相談等連絡あり支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いに耳を傾け様にし日々の様子や職員間の中で意向を確認している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族や御本人に聞き取りしセンター方式の用紙に記入していただいています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録に記入し朝夕の申し送り時に状況の共有ができるようにしています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に意見交換し必要であれば、御家族に情報の依頼をしています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が個別にあり記録の共有や申し送りノートにて情報の共有をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、臨機応変なサービスに取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民等交流あり暮らしを楽しめるよう支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先し、協力病院やかかりつけ医に通院介助している。個々のバイタル表を作成して協力病院に持参している。			

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護師による健康管理を行なっている。その際に相談やアドバイスをいただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、担当看護師から情報をいただいたりお互いに情報交換をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し了解を得た上で契約している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは、あるが初期対応の訓練は定期的には行っていない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の避難訓練は、実施している。その際地域の方の参加もあり協力体制は築いています。			

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や態度等尊厳を守るよう心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや希望があれば都度対応し、その人らしさを元に自己決定を委ねています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の希望は、できる限り優先し、個々を大切に支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカット、希望があれば美容室に同行しています。			

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米か粥等好みの希望により提供。食べれない物があれば代替品にて提供している。片付け等は、進んで行なってくれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、水分量や食事形態を考慮しています。水分量、食事量の記録により栄養のバランスを考え支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの声かけや一部介助にて行なっています。就寝時に義歯の方は、洗浄剤にて消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアから、御本人の状態を把握しさりげなく誘導したり御本人に合わせた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動も行ないながら、主治医から処方された下剤も使用し予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴ができるよう支援しています。希望があれば、その都度支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人のペースにて休息や睡眠はとっており意思を尊重し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的などを理解し服薬時には、全介助又は一部介助し、症状の変化があれば職員間で情報を共有し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の張り合い、得意な事、できる事を見極め楽しんで行なえるよう支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出したり、散歩に出かけたり支援している。家族と出かけられる時は、気持ちよく出かけられるよう支援しています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは、理解しているが使用する機会がない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援し、職員から促す事もあります。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に飾りを替え季節感を出すようにしています。室内温度、湿度には配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂がわかれており一人になれたり気の合った者同士になれる空間があります。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置くように家族と相談し居心地が良く過ごせるように支援しています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっています。廊下には危険がないように物の配置にも工夫しています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム 柘

作成日：平成 27年 11月 30日

市町村受理日：平成 27年 12月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害において地震での対応、水害での対応等各場面での対応まで細かく想定していない。	各場面での対応マニュアルを作成する。	災害時対策として職員2名担当をおきマニュアルの作成をしていく。	3ヶ月
2	4	運営推進会議において家族の意見等は特になく家族が参加しない会議もある。	家族の意向や意見等を聴き取り会議の話題にする。	運営推進会議の案内時アンケートも送付し意見等あげてもらい運営推進会議の議題にしたい。	4ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。